

第6回 こども10円商店街 実施報告書

NPO 法人 まちなびや

◇事業趣旨

子どもが商品販売やサービスを提供する「自分の店」を企画運営する体験を通して、多世代の人々との関わりを学習する。また、大人がお客となってこども店長を応援することで、地域の教育力向上を目指す。

◇実施内容

- 1 第1回店長会議 2月5日(日) 9:30~11:30
静岡市葵生涯学習センター 31集会室
参加者 こども店長29名 保護者約20名 スタッフ10名
 - ・保護者・こども合同ガイダンス
 - ・販売品・提供サービス、店名を決める
 - ・あいさつの練習
 - ・看板(のぼり旗)づくり



- 2 第2回店長会議 2月19日(日) 9:30~11:30
静岡市葵生涯学習センター 3階大音楽室
参加者 こども店長24名 スタッフ10名
 - ・販売リハーサル・売上表記入練習

※11:30~14:00まで、昼食後に商品・看板製作
(希望者18名ほど)



- 3 こども10円商店街本番 2月26日(日) 10:00~12:00・13:00~15:00
静岡市葵生涯学習センター 1階ロビー
参加者 こども店長29名 スタッフ11名 しずおか信用金庫8名
一般来場者約2,600名
 - ・販売、サービスの提供 → 総売上 18,960円
 - ・両替対応・売上集計(協力:しずおか信用金庫)



<出店一覧（全 13 店舗）>

販売系	ゲーム・くじ系	サービス系
お楽しみざっか A・R・B スイートウールレター おりがみざっか わくわくざっか屋さん	水中コインおとしゲーム 妖怪つりや ひもくじ ひみつのくじ屋！ まとあてやさん シャテキドージョー オリンピックくじや	かたたたきやさん

4 第4回店長会議 3月5日（日） 13：30～15：30

葵生涯学習センター 31 集会室

参加者 こども店長 28名 大人スタッフ 6名 寄付先3団体4名

（虹色たまご 納本様・うちっち 倉橋様・吉野様・おしゃべりパンダ 村松様）

- ・寄付先団体からのプレゼンテーション

→こども店長による投票・寄付金贈呈式

※金額：虹色たまご 7,449 円、うちっち 6,771 円、おしゃべりパンダ 4,740 円）

- ・振り返り（3～4 店舗ずつのグループで意見交換）

- ・スペシャル商店街（12 店舗出店）



◇広報

- ・店長募集チラシ（総計 6,500 部配布）

小学校 5,000 部（葵小 600 部・安東小 860 部・横内 600 部・

竜南 670 部・城北 670 部・千代田小 850 部・中田 750 部）

図書館・生涯学習センター400 部 生涯学習交流館 420 部 るくる 100 部

市民文化会館・マリナート・静岡市美術館・静岡音楽館（各 30 部） 計 120 部

アイセル館内配布・生涯イベント 等 500 部 *附属小白黒コピー300 部

- ・当日用の案内をコードモンデ 36 号に掲載（30000 部）、市内小中学校に配布

- ・店長会議全 3 回・本番のレポートをコードモンデ 37 号に掲載（20000 部）、市内小中学校に配布



◇事業の成果

子どもたちは、現金で 10 円均一のオリジナルの店を企画、運営した。10 円でどんなモノが売れるか、サービスが提供できるかを考える大切な機会となった。2 回のワークショップの中で、接客(声だし、挨拶、お辞儀のマナー)、売上票の書き方、看板づくりなどを学んだ。店舗運営の手順などの話し合い、お店を紹介するシートを作成した。リハーサル等行い準備を重ね、本番では客を積極的に呼び込むこともでき、ワークショップの成果が発揮された。保護者からは、学校では見ることができない子どもたちのいきいきとした姿に喜ぶ声が多数寄せられた。さらに、最後の店長会議で行ったスペシャル商店街では、ほぼすべてのお店が開店した。本番は忙しかった店長たちはお客となりゲームや買い物を楽しむことができた一方、お店を開いた店長たちも本番を振り返りながら楽しく接客を行っていた。こうして 10 円

商店街を別の立場から体験するということが、最後の振り返り活動として有意義であったと考える。

また、10円商店街のもう1つの目的に、売上の寄付行為がある。寄付先候補団体のプレゼンテーションを聞き、子どもたちは、意味あると感じるところに1票を投じるという仕組みである。NPO団体の存在や世の中で小さいけれど困っている方たちの役にたつ活動をしている団体の紹介もあり、子どもたちは投票先を真剣に悩み考え、決めることができた。自分で稼いだお金の寄付先を決定するという行為は新鮮な体験となったと考える。

第6回の成果として二つ挙げる。一つは、店長会議・本番ともに子どもたちの参加率が高かったことである。その要因として、店長会議における発表の場や経験者が見本を見せるなど、子ども主体に行う部分を増やしたことや、ノアデザイン学生や高校生などの若手スタッフによる見本づくりやアドバイスなどのサポートがあったことが考えられる。子どものふり返しシートにあった「今日の10円商店街本番はどうだったかな？」の問いには、84%の子どもが「楽しかった」と答えている。

もう一つは、今回の一人あたりの売上げが632円であり、過去最大となったということである。この要因は、各お店の工夫をしっかり考え、商品数の確保などの準備をしっかり行っていたことが考えられる。これは、保護者アンケートの「お子様は、自分なりに工夫してお店・サービスの提供ができた」「お子様は、困難なことがあっても最後までやり通すことができた」という問いに、回答者全員が肯定的な回答を選んでいることからうかがえる。感想欄にも「週末は、商品づくりの時間に費やすことも多く、あれやこれやとアイデアや意見を出しあいながら、商品づくりをしていました」など、子どもの努力の様子が多く書かれていた。

さらに、子どものふり返しシートにおける「また10円商店街をやりたいですか？」という問いには、約83%の子どもが「またやりたい」と答えている。保護者アンケートにおいても、回答者全員が次回も参加させたいと答えている。

◇実施体制

主催：静岡市葵生涯学習センター、NPO法人まちなびや

協力：しずおか信用金庫、千代田スクール、静岡大学教育学部塩田研究室

◇後援 静岡市教育委員会

◇大人スタッフ

板倉りえ子、多々良直樹、田中知子、戸谷雄一、廣瀬拓哉、村田優、弓削幸恵、勝村明 計8名

ノアデザインスタッフ 丸山・望月・大石・松浦・中西・池ヶ谷 計6名

しずおか信用金庫 8名

